

# 小江戸、川越で暮らす 藤井美登利さんの ふだん着物暦

江戸の風情が残る川越は、  
ふだん着物が自然に似合う街。  
川越に移り住んで13年。  
藤井美登利さんのふだん着物と  
この街の素敵な毎日を覗かせてもらいました。

撮影／松田洋一 構成／岩永八寿子



2



4

- 1 ネットで購入したリサイクルの紬の着物に、木綿の半幅帯。半衿は端切れで手作りした。亀屋山崎茶店前で。
- 2 川越のシンボル「時の鐘」。明治に再建された木造建築。大晦日には除夜の鐘が鳴る。
- 3 幕末から続く菓子屋横丁には昔懐かしい駄菓子がいっぱい。
- 4 人力車で街を巡るのも楽しい。



3

1





5 仲町の蔵造りの街並み。明治時代の黒漆喰の建物が並ぶ。



6

6 あとひき煎餅塩野の煎餅は昔ながらのさっぱり味。年始の挨拶に必ず持っていく。  
7 田中屋美術館の蔵を改装したコーナーは、静かな時間が流れる大好きな空間。紺の結城紬に、音符模様の帯で。



7



## 日常の暮らしに 着物を取り戻したくて

藤井美登利さんはかつて欧州の航空会社の客室乗務員だった。フ  
ライトで訪れるミラノやパリで、  
マダムたちの貫禄のある洋服の着  
こなしを見ては「かなわないな」と  
思うことがたびたびあったのだそ  
う。そんな時期に歌舞伎座へでか  
けたとき、「70代の女性でしたが、  
着物姿がとても素敵で、やはり日  
本人をいけば美しく見えるのは

着物だと感じました。「例えば、  
江戸小紋1枚あれば、帯や羽織で  
お祝いの席にもお通夜にも対応で  
きます。1枚の着物を慈しみ、や  
りくりする、昔からの日本人の知  
恵が生きている点も着物の素晴ら  
しさだと思います」  
藤井さんがこだわるのは、晴れ  
着の着物ではなく、生活着として  
のふだんの着物だ。持っているの



10



8

も、ウールや紬、木綿がほとんど。  
「ハレの着物文化は続いています  
日常から着物がなくなっていくの  
は残念ですよ」  
川越に移ったのは、大好きなふ  
だん着物が似合うからというの  
第一の理由だったが、やがて人々  
の暮らしぶりにも惹かれていった。  
「春は桜祭り、夏のお盆には迎え火  
をたいて。秋は川越祭りなど折々  
の歳時記をみんなが大切にしてい  
るんです」蔵造りの古い街並みも、  
その保存と維持には大変な苦労が  
いる。「それでも街の景観を守ろう

8 川越在住の人形作家の縮緬の干支人形はるり銀花

9 あとひき煎餅塩野で見つけた古裂れは半襟や小物を作って楽しんでいる。

10 ふだん着物の入門編にもうってつけと藤井さんおすすめが、川越の伝統的な木綿織物、川越唐棧。多彩な縮模様様が粋。仕立て代を入れても¥2万程度。呉服笠間や呉服かんだで取り扱っている。

11 亀屋山崎茶店の白漆喰の大蔵は江戸末期に建造。今は茶陶苑というカフェ&ギャラリー(3~7月・9~11月営業)

12 田中屋美術館は大正時代の洋風蔵作り。凝ったディテールの大正レトロな建物も川越には多い。

呉服笠間 ☎049・222・1518  
呉服かんだ ☎049・222・1235  
茶陶苑 ☎090・8174・4295



11



12

とする人たちの心意気に胸を打た  
れました」  
2001年からはタウン誌「小江  
戸ものがたり」を発行し、時の流れ  
とともに忘れられかけている、川  
越の職人技など古き良きものをす  
くい上げ、紹介している。また、  
着物姿で川越を楽しむ「川越ぎもの  
散歩」も主催。通りを歩いていたら、  
あちこちで店主や職人さんたちに、  
声をかけられる藤井さん。川越に  
根づいた暮らし。暮らしに寄り添  
うふだん着物。小走りで歩く彼女  
の着物姿が輝いて見えた。



3

- 川越氷川神社の土人形の十二支守
- 出初め式も楽しみな正月行事
- 川越氷川神社



2



1

## 藤井さんお気に入りのスポットとおみやげ



### 田中屋美術館

1階はカフェ。2階の美術館は、川越出身の画家、岩崎勝平の作品、装丁家、小村雪岱(せつたい)デザインの花鏡の初版本などを展示。入場料¥200



### ライトニングカフェ

玄米ランチや天然酵母パン、きび砂糖の和風スイーツなど、オーガニック食材にこだわった、おしゃれカフェ



浮世絵風の美人画で有名な小村雪岱のオリジナルポストカード

### あとひき煎餅塩野

蔵造りの手焼き煎餅屋。川越産の天然醸造醤油を使用し、香ばしい煎餅は地元で愛されて55年。古裂れや和風小物もある



人気のぬれ煎餅



### はるり銀花

粋なセンスでセレクトされた日本とアジアの布小物や陶器、ガラスなど。蔵造りの可愛い店

明治からの老舗料理屋「源氏家」の栗きんとん。川越名物のサツマイモを使用し、大粒の栗がたっぷり。9～翌4月まで製造。3日前までに要予約



「亀屋山崎茶店」の狭山茶。川越らしく蔵の形のボックス入り



藤井美登利(ふじいみどり)「小江戸ものがたり」の編集発行人。川越&着物をベースに、イベントの企画や、町歩きガイドなど多岐に渡って活動。「小江戸ものがたり」は年2回発行。@edonomogataricom  
牡丹、梅、紅葉が描かれた絵羽友禅は、大正末期に祖母があつらえたもの。二重太鼓に結んだ帯に、丸ぐけの帯締めでお正月らしく。田中屋美術館にて。

## お正月、川越へ 着物ででかけたくなったら 年末年始イベント暦

- 12月28日 川越成田山別院の骨董市。古着物や古布、陶器、古道具など。時の鐘で除夜の鐘。108人だけ鐘がつける。
- 大晦日 初詣 川越の総鎮守として親しまれている川越氷川神社。3が日は参拝客で賑わう。
- 元旦 初詣 川越の総鎮守として親しまれている川越氷川神社。3が日は参拝客で賑わう。
- 1月3日 喜多院初大師・だるま市。だるまは七転び八起きを意味する縁起物。川越消防出初め式。川越八幡宮でいなせな鷹職たちの初はしご乗りが行われる。
- 1月8日

問い合わせ/小江戸川越観光協会

☎049・227・8233

### 着物で七福神巡り

着物姿で、喜多院、妙善寺、天然寺など、七福神を祀る7つの寺をめぐるイベント。全行程約6km(所要2時間半ほど)日時:1月15日(問い合わせ/小杉 ☎049・222・4592)



遊び心で楽しみたい色柄物の足袋/あすまや

白足袋と白半襟はよそゆきっぽくなるので、柄足袋や色半襟を合わせています。好きな端切れを半襟にしたり、約束事にこだわらずコーディネートは自由。に楽しめるのが、ふだん着物の魅力です。

### 四、コーディネートを楽しむ



あすまやの女将さんと着物談義

三、着物友達や師匠を持つ  
いっしょに着物でかけたたり情報交換できる友達がいります。また、着物の師匠がいると心強いですね。私の場合は、川越の老舗の呉服店あすまやの女将さんが師匠。日常着としての着物の着方、着直しなど、着物の本には載っていない知識を折に触れ、教わっています。身近で着物通の方を見つけて師匠になってもらいましょう。

### 二、着る回数を増やす

着物に慣れるにはやはり場数を踏むことが肝心。おすめしたいのは、家で1日着物で過ごすこと。洋服と違い、着物はいい加減には着られません。組み合わせを考えることで自然と美意識も磨かれます。

今年こそふだん着物を  
楽しむために  
藤井さん流・着物ことはじめ